

南港野鳥園の設立趣旨と経緯

設立趣旨：開発が進む大阪湾岸に渡り鳥の楽園を育てていこう(1969年以來変わらず)

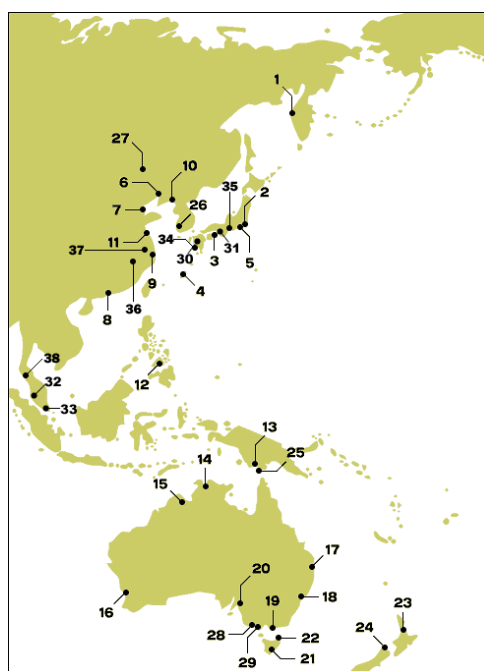
来園者対応や湿地管理の経緯、国際的重要施設としての位置づけ

1983年の開園以後は港湾局の外郭団体の運営であったため、来園者への観察サポートは、指定管理者による運営がはじまる2006年4月までは、地元自然保護団体、子どもNPO法人の前身であるNGO南港グループ、大学生などが中心となって休日のみボランティア組織で対応していた。2006年度以降にレンジャーが常駐するようになり、ボランティア組織は役目を果たして解散した。

また、干潟・湿地の管理に必要な渡り鳥の調査、干潟の生きもの調査、干潟の地形調査、手作業での手入れなども、NGOが中心にボランティアで継続してきた。湿地管理で改修工事が必要な場合は、港湾局との年2回の懇談会で提案を行い、港湾局との技術レベルの会合を重ねて工事内容を決め、今の環境に至っている。

東アジア・オーストラリア地域ワイルドフライト・パートナーシップの登録地として認定(2003年)

1. 何千キロもの渡りをするシギ・チドリ類の中継地として重要な干潟となる
2. 国際的ネットワークで繁殖地・中継地・越冬地の生息地を守ることに参加
3. 東アジア、日本、韓国、中国、東南アジア、オーストラリアなど38カ所のシギ・チドリ類の生息地が現在登録されている
4. これらの生息地の施設は、渡り鳥のことや生息環境を学ぶ環境教育や国際交流の拠点でもある。とくに、南港野鳥園はこれら38カ所の生息地では、一番よく利用されている施設で、このことは、メルボルン市に拠点を置く自然保護団体からの橋下市長宛に送った書簡にも書かれている。



17番はクイーンズランド州にあるかなり大きな干潟。
19 / 20 / 28 / 29番はメルボルンのビクトリア州の干潟・湿地

干潟と湿地の管理（手入れ）について

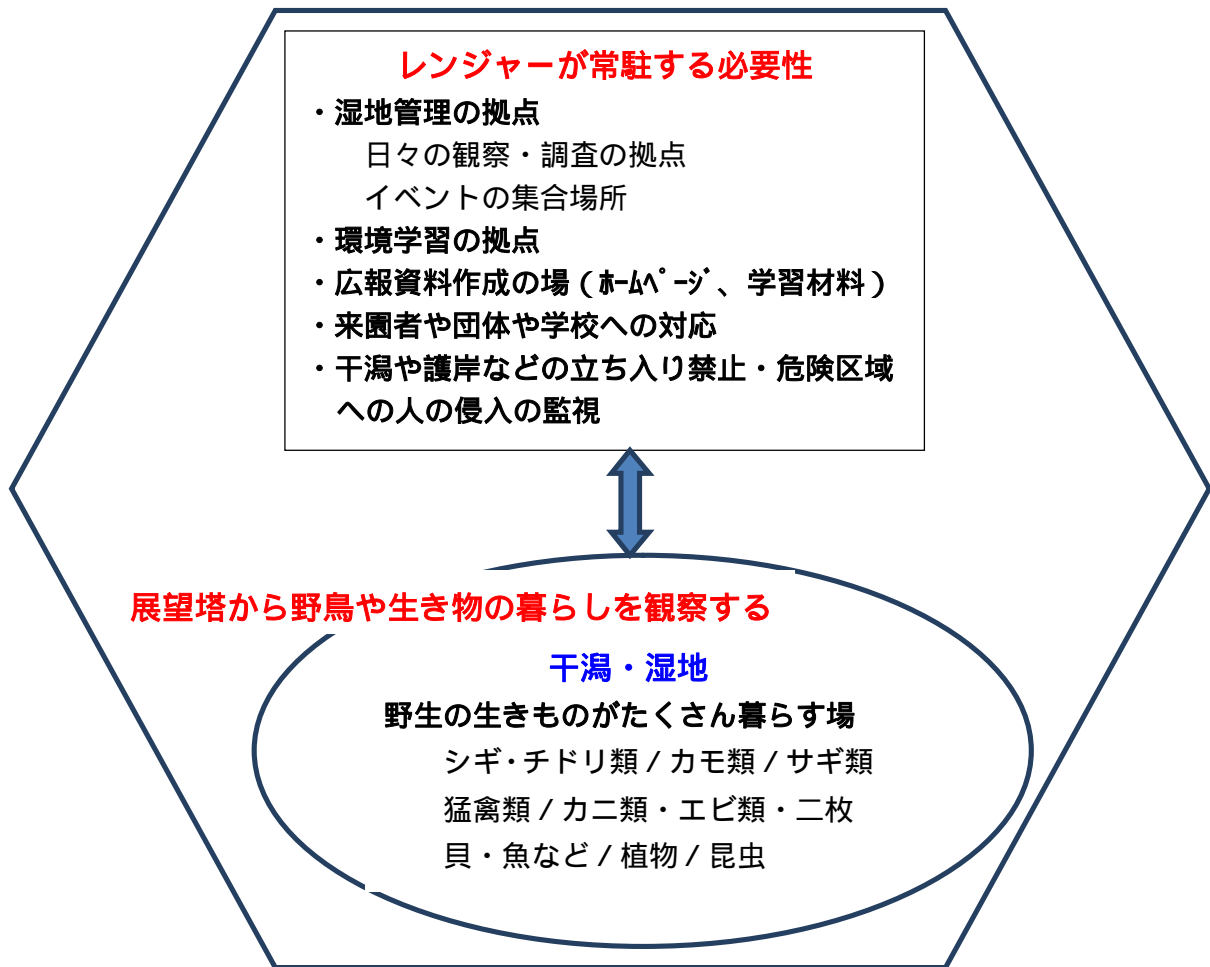
干潟と湿地の管理は、展望塔からの毎日の調査や監視が不可欠であるため、展望塔運営と湿地管理を分離せずに一体として考える必要がある。

南港野鳥園は人工干潟であるため自然干潟よりもきめ細やかな管理が必要。手入れの目的は、水鳥が干潟で十分に餌をとり、休息できるようにするため。とくに、数千キロの長い距離を旅するシギ・チドリ類などの渡り鳥の中継地である野鳥園の干潟を良い環境として維持することを最優先にしてきた。

1. **人材**：野鳥園のことを熟知し、現場で積み上げた専門的知識や経験の蓄積をもった人たちが関わること
2. **現状把握**：野鳥が干潟や湿地をどのように利用し、何を食べているか。また、どこにどんな生き物が分布しているのかを日頃から調査し、野鳥や生き物の視点から干潟のどこが良好で、どこが悪化しているのかという現状を把握すること
3. **事前調査**：干潟や湿地のどこをどのように手入れすれば、野鳥や干潟の生き物にも影響が少なく、湿地と干潟を維持または改善できるかを手入れする前に干潟や湿地に入って、その状況を調べること
4. **手入れ内容**：短期、中期、長期の展望での手入れが必要。干潟の地形の変化、干満時の海水の流れ、干潟を構成する様々な環境を、いつどのように改善し、維持していくのかを工夫しながら手入れを行ってきた。また、自然災害時などには、重機による手入れも必要な場合がある。ヨシ刈り、アオサ取り、ゴミ清掃は随時実施するもので、湿地管理の中の一部にすぎない。
5. **展望塔の役割**：展望塔施設からは、すべての湿地や干潟が見渡せるため、湿地管理のための毎日の調査には欠かせない拠点。展望塔に現場経験の豊富な人たちが常駐し、毎日の調査や監視に基づく湿地管理を続けないかぎり、見直し計画にある『現在の湿地の保全が可能な管理』は到底できません。

上記のことから、大阪市港湾局が建設消防委員会で答弁されていた『緑地管理と同じ様な手法で干潟や湿地の管理を行い（専門的な知識も必要でなく、特殊な作業もない）、その後専門家に実施内容の確認（年1回程度）や干潟の生物の生息環境への影響を確認する』という方法は、これまで30年かけて干潟を再生し回復させてきた方法とは明らかに異なり、今後の湿地保全には極めてリスクが大きい。

展望塔：レンジャーが常駐し、干潟と大阪湾を見渡せる場所



NPO 法人南港ウェットランドグループの設立趣旨：

大阪湾奥部に造成された大阪南港野鳥園において、渡り鳥とくにシギ・チドリ類や多様な生きものが暮らすことができる干潟や湿地（ウェットランド）を育て、保全する活動を、行政や市民と協力して行います。

それと共に、生きものが豊かな湿地の存在を知ってもらい、都会に住む人たちに海や湿地の大切さを知る機会や、地域社会の文化活動や環境教育の場を提供します。

さらに、国際協力により保護すべきシギ・チドリ類のネットワーク登録湿地として、国内外の交流拠点施設の役割を果たすための活動をします。